

猪名川上流広域ごみ処理施設建設事業

環境影響評価実施計画書

<概要版>

平成14年5月

猪名川上流広域ごみ処理施設組合

目 次

第1章 対象事業の概要	1
1.1 環境影響評価実施者の名称	1
1.2 対象事業の名称等	1
1.3 対象事業の目的及び内容等	1
1.3.1 対象事業の目的	1
1.3.2 対象事業の内容等	1
第2章 環境影響要因と環境要素の関連	6
2.1 環境影響要因の抽出	6
2.2 環境影響要因ごとの環境要素に及ぼす影響の有無	7
第3章 環境影響評価の実施方針	8
3.1 現況調査、予測・評価を行う項目	8
3.2 調査等の計画	9
3.2.1 現況調査計画（案）	9
3.2.2 予測・評価計画（案）	12

第1章 対象事業の概要

1.1 環境影響評価実施者の名称

環境影響評価実施者の名称 : 猪名川上流広域ごみ処理施設組合
管理者 柴生 進

1.2 対象事業の名称等

対象事業の名称 : 猪名川上流広域ごみ処理施設建設事業
対象事業の施行者 : 猪名川上流広域ごみ処理施設組合
管理者 柴生 進
対象事業予定地 : 兵庫県川西市国崎字小路
対象事業の種類 : 「猪名川上流広域ごみ処理施設組合が設置するごみ処理施設に係る環境影響評価の実施手続に関する条例」の対象となるごみ焼却施設及びリサイクルプラザの建設

1.3 対象事業の目的及び内容等

1.3.1 対象事業の目的

兵庫県川西市、同川辺郡猪名川町、大阪府豊能郡豊能町及び能勢町の1市3町は、国のごみ処理の広域化方針を背景に、川西市における施設の老朽化や豊能郡におけるダイオキシン汚染を契機に、環境を共有する地域として、共同で新たなごみ処理施設を建設することに合意した。

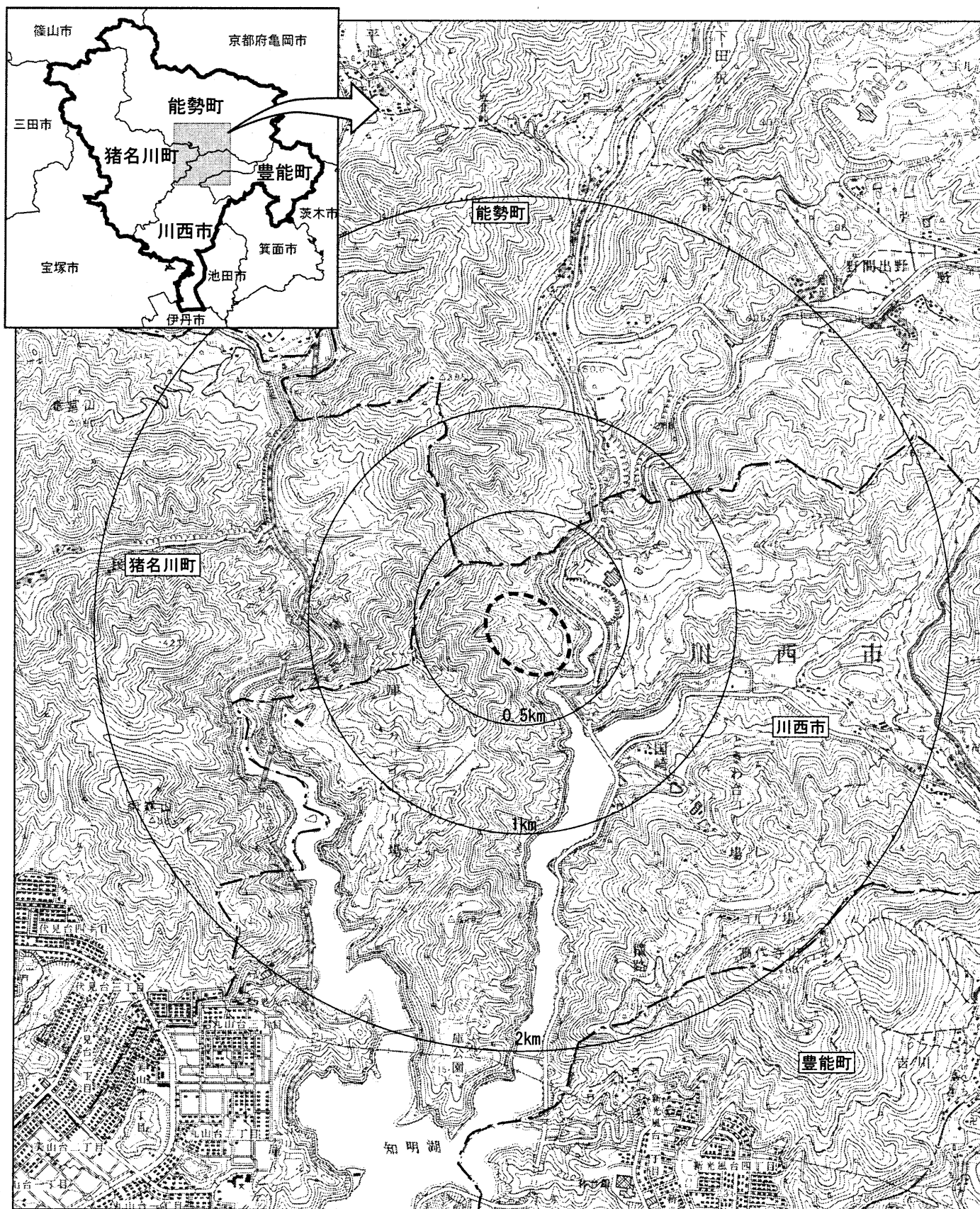
本事業は、その合意に基づき、ごみ焼却施設及びリサイクルプラザを建設し稼働させることにより、ごみ処理施設から排出される有害物質等による環境負荷を現状より低減させるとともに、一般廃棄物の安定的かつ適正な処理及びリサイクルを行い、循環型社会の構築に寄与することを目的とする。

1.3.2 対象事業の内容等

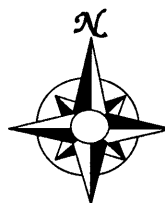
1) 事業予定地の位置

事業予定地を図1-3-1に示す。

事業予定地は川西市の最北部にあり、能勢町との境界に近い。ごみ処理の対象区域である1市3町のほぼ中央に位置する。



凡 例	
	事業予定地
	行政界



1:25,000
0 250 500 750 1000m

図1-3-1 事業予定地位置図

2) 事業の規模

本事業において、想定される規模は表 1-3-1 に示すとおりである。

ただし、事業の規模については、現在策定中の 1 市 3 町ごみ処理基本計画に基づき、修正するものとする。

表 1-3-1 想定される事業の規模

項 目		規 模
事業対象面積		約 10 ha（行為面積）
処理施設	ごみ焼却施設	285 t / 日
	リサイクルプラザ	70 t / 5 時間

3) 処理対象物の種類と想定される処理フロー

本事業の処理対象物の種類と想定される処理フローを図 1-3-2 に示す。

4) 事業の完成予定

本事業は、平成 18 年 9 月末の完成を予定している。

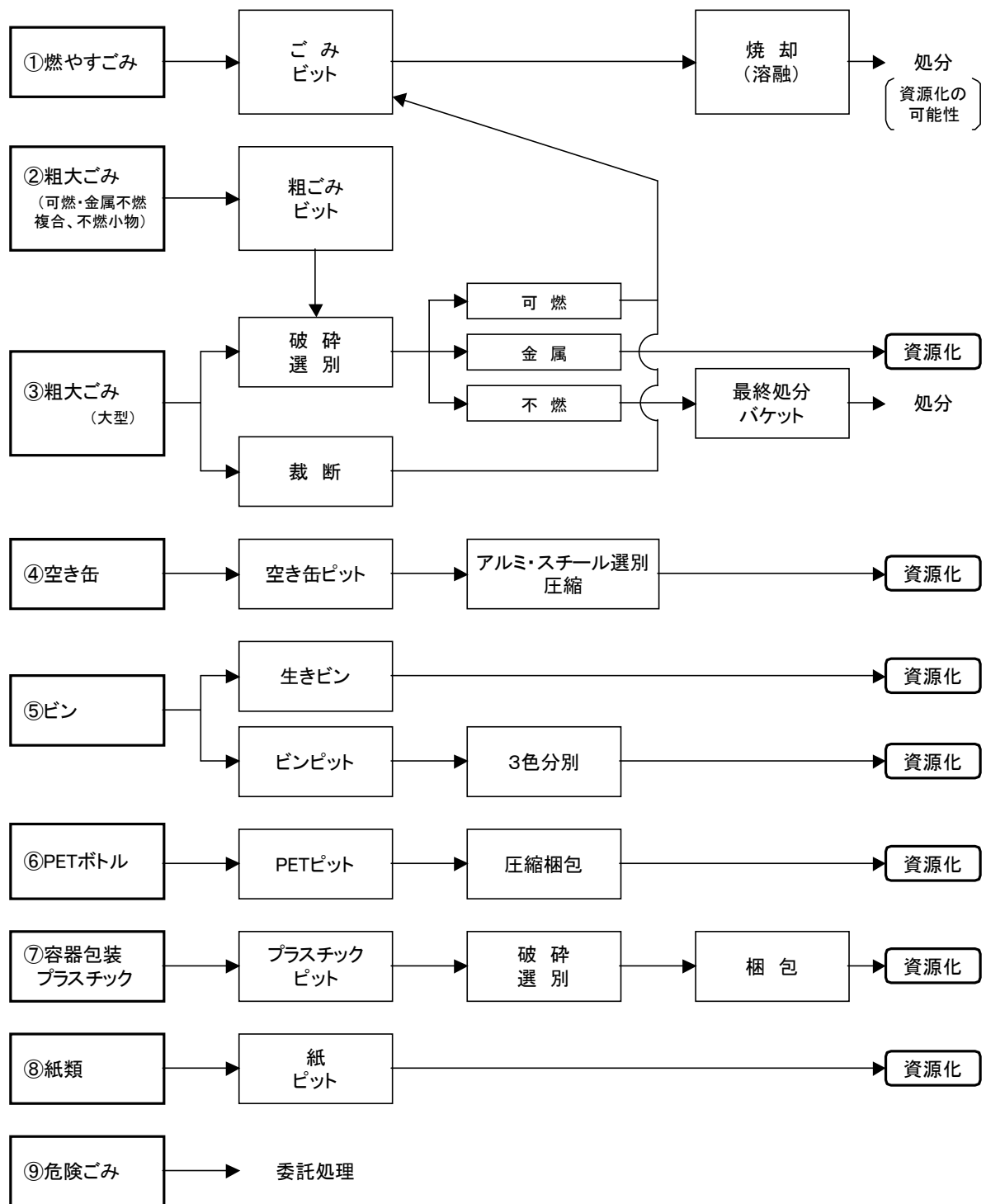


図 1-3-2 処理対象物の種類と想定される処理フロー

5) その他前提としている条件

(1) 排水処理施設

本事業では、施設からの排出水（雨水を除く）については適切に処理し、公共下水道へ放流する計画である。

(2) 車両通行計画

① 工事中の工事関係車両

工事中の資機材の搬入等は、県道野間出野一庫線を通じて行う計画であり、県道から事業予定地の間は既存の道路を拡幅、もしくは仮設橋梁・道路を設置して行うものとする。

② 供用時の廃棄物運搬車両

施設供用時の搬出入には、直接施設に接続される県道野間出野一庫線を経由して、国道 173 号、豊能町道吉川中央線、県道国崎野間口線、府道吉野下田尻線、府道野間出野一庫線を使用する計画である。

(3) 処理施設が環境に与える負荷の基準について

管理基準として「猪名川上流 1 市 3 町広域ごみ処理施設整備検討委員会報告書（平成 11 年 9 月）」により設定された環境に与える負荷の排出基準を遵守するものとする。

第2章 環境影響要因と環境要素の関連

2.1 環境影響要因の抽出

本事業の実施が周辺地域の環境に及ぼす影響を明らかにするため、工事から存在、供用までの一連の諸過程の中から、環境に影響を及ぼす行為（以下「環境影響要因」という。）を、「工事時」、「存在時」及び「供用時」に大別して把握した。

事業の実施により環境に影響を及ぼすと考えられる環境影響要因とその抽出理由を表 2-1-1 に示す。

表 2-1-1 環境影響要因の抽出

段 階	環境影響要因	抽 出 理 由
工事時	工事関係車両の走行	車両の走行に伴う排出ガス、騒音及び振動の発生
	施工機械の稼働	施工機械の稼働に伴う排出ガス、騒音及び振動の発生
	土地の造成・施設等の建設	施設等の建設による土地の改変、造成に伴う粉じんの発生、濁水の流出、建設廃棄物の発生
存在時	建築物等の存在	建築物等の存在
供用時	廃棄物運搬車両の走行	車両の走行に伴う排出ガス、騒音及び振動の発生、廃棄物からの悪臭の発生
	施設の稼働	煙突から排出されるばい煙、施設から排出される排水、施設の稼働に伴う粉じん、騒音、振動、低周波音及び悪臭の発生、施設稼働に伴う廃棄物の発生、地下水の揚水
	土地利用の変化	土地利用の変化、河川流量の変化

2.2 環境影響要因ごとの環境要素に及ぼす影響の有無

抽出された環境影響要因、事前調査の結果を照らし合わせ、環境影響要因と環境要素の関連について、影響の有無を検討した。

環境影響要因と環境要素の関連を表 2-2-1 に示す。

表 2-2-1 環境影響要因と環境要素の関連

環境影響要因 環境要素	工事関係車両の走行	施工機械の稼働	土地の造成・施設等の建設	存在時 建築物等の存在	供 廃棄物運搬車両の走行	用 施設の稼働	時 土地利用の変化
大気汚染	○	○			○	○	○
水質汚濁			○			○	
底質			○			○	
土壌汚染						○	
騒音	○	○			○	○	
振動	○	○			○	○	
低周波音						○	
地盤沈下				○		○	
悪臭					○	○	
廃棄物			○			○	
地形・地質			○				
陸生植物			○				○
陸生動物			○				○
水生生物			○				○
生態系			○				○
文化財			○				
レクリエーション	○			○	○		
景観				○			
水象							○
地球温暖化	○	○			○	○	

注) ○：影響が考えられる項目、空欄：影響がないか若しくは影響がほとんどない項目

第3章 環境影響評価の実施方針

3.1 現況調査、予測・評価を行う項目

本環境影響評価において、現況調査及び予測・評価を行う環境要素は、表 3-1-1 に示すとおりである。

表 3-1-1 現況調査、予測・評価を行う項目

環境影響要因 環境要素	現 況 調 査	予 測 ・ 評 価						
		工 事 時			存在時	供 用 時		
		工 事 関 係 車 両 の 走 行	施 工 機 械 の 稼 働	土 地 の 造 成 ・ 施 設 等 の 建 設	建 築 物 等 の 存 在	廃 棄 物 運 搬 車 両 の 走 行	施 設 の 稼 働	土 地 利 用 の 変 化
大 気 汚 染	○	○	○			○	○	○
水 質 汚 濁	○			○			○	
底 質	○			○			○	
土 壌 汚 染	○						○	
騒 音	○	○	○			○	○	
振 動	○	○	○			○	○	
低 周 波 音	○						○	
地 盤 沈 下	○				○		○	
悪 臭	○					○	○	
廃 棄 物	○			○			○	
地 形 ・ 地 質	○			○				
陸 生 植 物	○			○				○
陸 生 動 物	○			○				○
水 生 生 物	○			○				○
生 態 系	○			○				○
文 化 財	○			○				
レクリエーション	○	○			○	○		
景 観	○				○			
水 象	○							○
地 球 温 暖 化	○	○	○			○	○	

3.2 調査等の計画

3.2.1 現況調査計画（案）

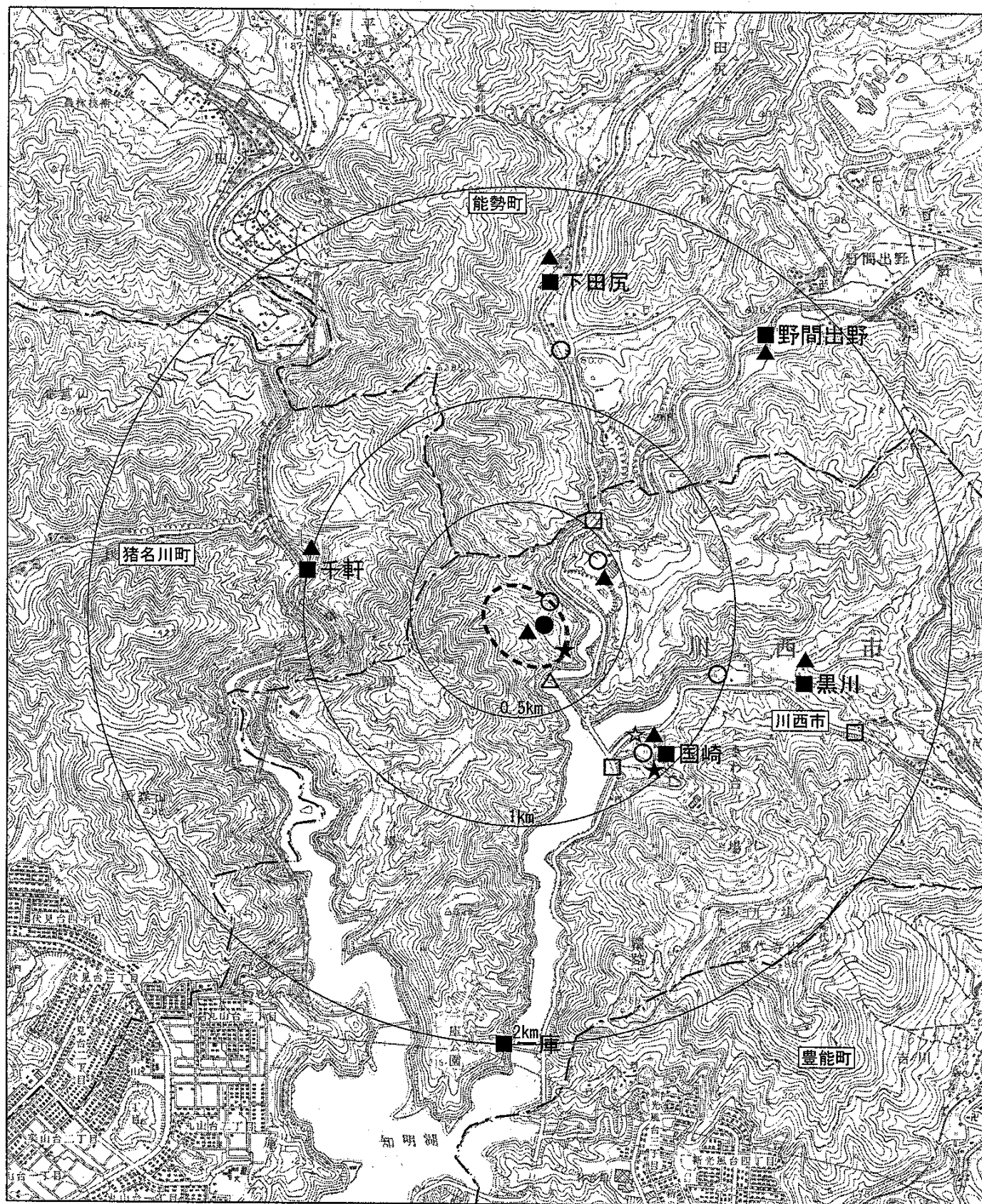
現況調査計画（案）を表 3-2-1 に、現地調査地点位置図を図 3-2-1 に示す。

表 3-2-1(1) 現況調査計画（案）

環 境 要 素	調 査 方 法	現地調査項目		現地調査地点	現地調査の 時期・頻度
大 気 汚 染	既存資料の収集・整理を行うとともに、地上気象、上層気象及び大気質の現地調査を行う	地上気象	風向・風速, 気温, 湿度, 日射量及び放射収支量	事業予定地 1 地点	1 年間連続
		上層気象	風向・風速, 気温	事業予定地 1 地点	4 季各 7 日間
		大気質	二酸化硫黄, 窒素酸化物, 浮遊粒子状物質, 光化学オキシダント	周辺地域 6 地点	4 季各 7 日間
			塩化水素, ベンゼン, トリクロエチレン, テトラクロエチレン, シクロメタン, 水銀, 粉じん及び粉じん中重金属, ダイオキシン類	周辺地域 6 地点	4 季各 1 日間
			野外拡散実験	風下 3km 程度	2 季各 5 日間 (計 10 ケース)
水 質 汚 濁	既存資料の収集・整理を行うとともに、表流水水質の現地調査を行う	平常時水質	一般項目(水温, 流量等 5 項目) 生活環境項目(pH, BOD 等 8 項目)	知明湖(田尻川) 1 地点	12 回/年
			健康項目(重金属等 26 項目) その他項目(ダイオキシン類等 12 項目)	知明湖(田尻川) 1 地点	4 季各 1 回
		出水時水質	浮遊物質, 透視度, 濁度, 流量	知明湖(田尻川) 1 地点	2 回/年
			粒度組成, 沈降試験	事業予定地 1 地点	1 回
		地下水水質	ダイオキシン類	周辺地域 1 地点	1 回
底 質	既存資料の収集・整理を行うとともに、底質の現地調査を行う	底 質	含水量, 硫化物, 強熱減量, 粒度組成, COD, R-Hg, T-N, T-P, Pb, Cd, T-Hg, As, Cr6+, T-Cr, Cu, CN, PCB, ダイオキシン類, pH, 酸化還元電位, リン酸性リン, アモニア性窒素, 硝酸性窒素, 亜硝酸性窒素	知明湖(田尻川) 1 地点	2 季各 1 回
土 壌 汚 染	既存資料の収集・整理を行うとともに、土壌汚染の現地調査を行う	土壌汚染	環境基準項目の 27 項目 ダイオキシン類	事業予定地 1 地点, 周辺地域 6 地点	1 回/年
騒 音	既存資料の収集・整理を行うとともに、騒音の現地調査を行う	道路交通騒音	騒音レベル, 交通量	県道野間出野一庫線、県道国崎野間口線の計 3 地点	2 回/年
		環境騒音	騒音レベル	事業予定地敷地境界の 1 地点 周辺地域 1 地点	2 回/年
振 動	既存資料の収集・整理を行うとともに、振動の現地調査を行う	道路交通振動	振動レベル, 地盤卓越振動数	道路交通騒音と同じ	2 回/年
		環境振動	振動レベル	環境騒音と同じ	2 回/年
低 周 波 音	既存資料の収集・整理を行うとともに、低周波音の現地調査を行う	低周波音	低周波音圧レベル	環境騒音と同じ	2 回/年
地 盤 沈 下	既存資料の収集・整理を行い、地盤の状況を把握する	—	—	—	—
悪 臭	既存資料の収集・整理を行うとともに、悪臭の現地調査を行う	悪 臭	特定悪臭物質 22 項目, 臭気指数	事業予定地敷地境界の 1 地点 周辺地域 4 地点	2 季各 1 回

表 3-2-1(2) 現況調査計画 (案)

環 境 要 素	調 査 方 法	現地調査項目		現地調査地点	現地調査の 時期・頻度
廃 棄 物	事業計画の内容と現地調査をもとに廃棄物の発生状況について調査する	廃棄物	樹木等の状況	事業予定地	1 回
地 形・地 質	既存資料の収集・整理を行い、地形・地質の状況について把握する	—	—	—	—
陸 生 植 物	既存資料の収集・整理を行うとともに、陸生植物の現地調査を行う	陸生植物	植物相,植物群落	事業予定地中心から半径 500m 程度の範囲	4 季
陸 生 動 物	既存資料の収集・整理を行うとともに、陸生動物の現地調査を行う	陸生動物	ほ乳類,鳥類,両生・は虫類,昆虫類	事業予定地中心から半径 500m 程度の範囲	4 季
水 生 生 物	既存資料の収集・整理を行うとともに、水生生物の現地調査を行う	水生生物	魚類,底生動物,付着藻類	知明湖(田尻川)等 3 地点	4 季
生 態 系	動植物の現地調査及び既存資料調査をもとに生態系の構成要素及び相互関係を把握する	—	—	—	—
文 化 財	既存資料の収集・整理を行い、埋蔵文化財包蔵地等の分布状況について把握する	銀銅採掘坑分布地区	現地踏査	事業予定地	1 回
レクリエーション	既存資料の収集・整理及び現地踏査を行い、レクリエーション地の分布状況及び概要等について把握する	—	—	—	—
景 観	既存資料の収集・整理を行うとともに、景観の現地調査を行う	景 観	景観構成要素の状況,主要眺望地点からの眺望の状況	事業予定地中心から半径 3km 程度の範囲	2 季
水 象	既存資料の収集・整理を行うとともに、水質の現地調査結果をもとに水象の状況を把握する	水 象	流量(水質汚濁調査と兼ねる)	知明湖(田尻川) 1 地点	12 回/年
地球温暖化	事業計画の内容をもとに事業実施による燃料等の使用状況について調査する	—	—	—	—



凡 例	
	事業予定地
	行政界
●	地上気象, 上層気象調査地点
■	大気質調査地点
▲	土壌調査地点
△	水質, 底質調査地点
☆	地下水水質調査地点
★	環境騒音振動, 低周波音調査地点
□	道路交通騒音・振動調査地点
○	悪臭調査地点



1:25,000
0 250 500 750 1000m

図3-2-1 現地調査地点位置図(案)

3.2.2 予測・評価計画（案）

予測計画（案）を表 3-2-2 に、評価計画を表 3-2-3 に示す。

表 3-2-2(1) 予測計画（案）

環 境 要 素	予測対象 時 期	予 測 項 目	予測地域	予 測 方 法
大 気 汚 染	工事時	工事関係車両の走行に伴う排出ガスの影響	車両が走行する沿道地域	大気拡散モデル(フルム・ハーフ式)による数値計算により予測する。
		施工機械の稼働に伴う排出ガスの影響	事業予定地周辺地域	大気拡散モデル(フルム・ハーフ式)による数値計算により予測する。
	供用時	廃棄物運搬車両の走行に伴う排出ガスの影響	車両が走行する沿道地域	大気拡散モデル(フルム・ハーフ式)による数値計算により予測する。
		焼却施設の稼働に伴い発生する排出ガスの影響	事業予定地を中心とする半径 5km 四方の範囲	大気拡散モデル(フルム・ハーフ式等)による数値計算により予測(長期濃度及び短期濃度)する。
		裸地等から発生する粉じんの影響	事業予定地周辺地域	事業計画、気象調査結果等をもとに定性的に予測する。
水 質 汚 濁	工事時	降雨時の濁水による河川等水質への影響	知明湖(田尻川)	事業計画、保全対策等をもとに定性的に予測する。
	供用時	施設からの排水による河川等水質への影響	知明湖(田尻川)	水質予測モデルによる数値計算あるいは類似事例の引用又は解析により予測する。
底 質	工事時	降雨時の濁水による底質への影響	知明湖(田尻川)	事業計画、保全対策等をもとに定性的に予測する。
	供用時	施設からの排水による底質への影響	知明湖(田尻川)	事業計画、保全対策等をもとに定性的に予測する。
土 壌 汚 染	供用時	焼却施設の稼働に伴い発生する排出ガスの影響	事業予定地を中心とする半径 5km 四方の範囲	大気汚染の予測結果から定性的に予測する。
騒 音	工事時	施工機械の稼働による騒音の影響	事業予定地周辺地域	騒音伝播モデルによる数値計算により予測する。
		工事関係車両の走行に伴う騒音の影響	車両が走行する沿道地域	騒音伝播モデルによる数値計算により予測する。
	供用時	施設の稼働による騒音の影響	事業予定地周辺地域	騒音伝播モデルによる数値計算により予測する。
		廃棄物運搬車両の走行に伴う騒音の影響	車両が走行する沿道地域	騒音伝播モデルによる数値計算により予測する。
振 動	工事時	施工機械の稼働による振動の影響	事業予定地周辺地域	振動伝播モデルによる数値計算により予測する。
		工事関係車両の走行に伴う振動の影響	車両が走行する沿道地域	振動伝播モデルによる数値計算により予測する。
	供用時	施設の稼働による振動の影響	事業予定地周辺地域	振動伝播モデルによる数値計算あるいは類似事例の引用又は解析により予測する。
		廃棄物運搬車両の走行に伴う振動の影響	車両が走行する沿道地域	振動伝播モデルによる数値計算により予測する。
低 周 波 音	供用時	施設の稼働による低周波音の影響	事業予定地周辺地域	低周波音伝播モデルによる数値計算あるいは類似事例の引用又は解析により予測する。

表 3-2-2(2) 予測計画（案）

環 境 要 素	予測対象 時 期	予 測 項 目	予測地域	予 測 方 法
地 盤 沈 下	存在時	施設等の立地による加重による影響	事業予定地及びその周辺地域	事業計画、既存調査結果等をもとに、既存の類似事例等を参考に定性的に予測する。
	供用時	地下水の揚水による影響	事業予定地及びその周辺地域	事業計画、既存調査結果等をもとに、既存の類似事例等を参考に定性的に予測する。
悪 臭	供用時	施設から発生する悪臭の影響	事業予定地周辺地域	事業計画、現況調査結果等をもとに、既存の類似事例等を参考に定性的に予測する。
		廃棄物運搬車両から発生する悪臭の影響	車両が走行する沿道地域	事業計画等をもとに、既存の類似事例等を参考に定性的に予測する。
廃 棄 物	工事時	建設副産物の発生による影響	事業予定地及び廃棄物の処分先	事業計画、現況調査結果等をもとに、既存の類似事例等を参考に定性的に予測する。
	供用時	施設の稼働に伴い発生する廃棄物の影響	事業予定地及び廃棄物の処分先	事業計画、現況調査結果等をもとに、既存の類似事例等を参考に定性的に予測する。
地 形 ・ 地 質	工事時	土地の改変による特異な地形・地質への影響	事業予定地及びその周辺地域	事業計画、現況調査結果等をもとに、既存の類似事例等を参考に定性的に予測する。
陸 生 植 物	工事時 供用時	土地の改変及び土地利用の変化による陸生植物への影響	事業予定地及びその周辺地域	事業計画、現況調査結果等をもとに、既存の類似事例等を参考に定性的に予測する。
陸 生 動 物	工事時 供用時	土地の改変及び土地利用の変化による陸生動物への影響	事業予定地及びその周辺地域	事業計画、現況調査結果等をもとに、既存の類似事例等を参考に定性的に予測する。
水 生 生 物	工事時 供用時	土地の改変及び土地利用の変化による水生生物への影響	知明湖(田尻川)	事業計画、現況調査結果等をもとに、既存の類似事例等を参考に定性的に予測する。
生 態 系	工事時 供用時	土地の改変及び土地利用の変化による生態系への影響	事業予定地及びその周辺地域	事業計画、現況調査結果等をもとに、既存の類似事例等を参考に定性的に予測する。
文 化 財	工事時	土地の改変による埋蔵文化財包蔵地等への影響	事業予定地	事業計画、現況調査結果等をもとに、既存の類似事例等を参考に定性的に予測する。
レクリエーション	工事時 供用時	工事関係車両及び廃棄物運搬車両の走行によるレクリエーション地等への影響	レクリエーション地	事業計画、現況調査結果等をもとに、既存の類似事例等を参考に定性的に予測する。
	存在時	施設の存在によるレクリエーション地等への影響	レクリエーション地	事業計画、現況調査結果等をもとに、既存の類似事例等を参考に定性的に予測する。
景 観	存在時	施設の存在による景観への影響	主要眺望地点	主要眺望地点からの現状の景観に、施設の予測画像を合成したフォトモンタージュ写真を作成し、定性的に予測する。
水 象	供用時	土地利用の変化による河川等流況への影響	知明湖(田尻川)	事業計画、現況調査結果等をもとに、既存の類似事例等を参考に定性的に予測する。
地球温暖化	工事時 供用時	工事及び施設稼働による二酸化炭素の排出量	—	廃棄物の処理量等から二酸化炭素の排出量を予測する。

表 3-2-3(1) 評価計画（案）

環 境 要 素	予測対象 時 期	予 測 項 目	環境保全目標	評 価 方 法
大 気 汚 染	工事時	工事関係車両の走行に伴う排出ガスの影響	環境基準値を環境保全目標とする。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
		施工機械の稼働に伴う排出ガスの影響	環境基準値を環境保全目標とする。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
	供用時	廃棄物運搬車両の走行に伴う排出ガスの影響	環境基準値を環境保全目標とする。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
		焼却施設の稼働に伴い発生する排出ガスの影響	環境基準値等を環境保全目標とする。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
		裸地等から発生する粉じんの影響	周辺住民の日常生活に著しい影響を与えないこと。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
水 質 汚 濁	工事時	降雨時の濁水による河川等水質への影響	河川等水質に著しい影響を及ぼさないこと。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
	供用時	施設からの排水による河川等水質への影響	環境基準値等を環境保全目標とする。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
底 質	工事時	降雨時の濁水による底質への影響	底質の悪化を招かないこと。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
	供用時	施設からの排水による底質への影響	底質の悪化を招かないこと。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
土 壌 汚 染	供用時	焼却施設の稼働に伴い発生する排出ガスの影響	環境基準値を環境保全目標とする。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
騒 音	工事時	施工機械の稼働による騒音の影響	環境基準値等を環境保全目標とする。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
		工事関係車両の走行に伴う騒音の影響	環境基準値等を環境保全目標とする。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
	供用時	施設の稼働による騒音の影響	環境基準値等を環境保全目標とする。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
		廃棄物運搬車両の走行に伴う騒音の影響	環境基準値等を環境保全目標とする。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
振 動	工事時	施工機械の稼働による振動の影響	周辺住民が日常生活において支障がないこと。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
		工事関係車両の走行に伴う振動の影響	周辺住民が日常生活において支障がないこと。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
	供用時	施設の稼働による振動の影響	周辺住民が日常生活において支障がないこと。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
		廃棄物運搬車両の走行に伴う振動の影響	周辺住民が日常生活において支障がないこと。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
低 周 波 音	供用時	施設の稼働による低周波音の影響	指標値等を環境保全目標とする。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
地 盤 沈 下	存在時	施設等の立地による加重による影響	地盤沈下を生じないこと。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
	供用時	地下水の揚水による影響	地盤沈下を生じないこと。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。

表 3-2-3(2) 評価計画（案）

環 境 要 素	予測対象 時 期	予 測 項 目	環境保全目標	評 価 方 法
悪 臭	供用時	施設から発生する悪臭の影響	周辺住民が日常生活において感知しないこと。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
		廃棄物運搬車両から発生する悪臭の影響	周辺住民が日常生活において感知しないこと。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
廃 棄 物	工事時	建設副産物の発生による影響	地域における廃棄物の処理・処分に支障を及ぼさないこと。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
	供用時	施設の稼働に伴い発生する廃棄物の影響	地域における廃棄物の処理・処分に支障を及ぼさないこと。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
地 形 ・ 地 質	工事時	土地の改変による特異な地形・地質への影響	貴重な地形・地質については重要度区分に応じて保全することとする。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
陸 生 植 物	工事時 供用時	土地の改変及び土地利用の変化による陸生植物への影響	全般に自然環境への影響をできる限り回避・低減し、保全することとし、かつ、貴重な陸生植物については重要度区分に応じて保全することとする。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
陸 生 動 物	工事時 供用時	土地の改変及び土地利用の変化による陸生動物への影響	全般に自然環境への影響をできる限り回避・低減し、保全することとし、かつ、貴重な陸生動物については重要度区分に応じて保全することとする。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
水 生 生 物	工事時 供用時	土地の改変及び土地利用の変化による水生生物への影響	全般に自然環境への影響をできる限り回避・低減し、保全することとし、かつ、貴重な水生生物については重要度区分に応じて保全することとする。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
生 態 系	工事時 供用時	土地の改変及び土地利用の変化による生態系への影響	自然環境への影響をできる限り回避・低減し、保全すること。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
文 化 財	工事時	土地の改変による埋蔵文化財包蔵地等への影響	できるかぎり支障を及ぼさないこと。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
レクリエーション	工事時 供用時	工事関係車両及び廃棄物運搬車両の走行によるレクリエーション地等への影響	レクリエーション地・施設の利用に支障がないこと。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
	存在時	施設の存在によるレクリエーション地等への影響	レクリエーション地・施設の利用に支障がないこと。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
景 観	存在時	施設の存在による景観への影響	周辺地域の景観と調和が図られていること。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
水 象	供用時	土地利用の変化による河川等流況への影響	現況の水利用に支障をきたさないこと。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。
地球温暖化	工事時 供用時	工事及び施設稼働による二酸化炭素の排出量	二酸化炭素の排出量が可能な限り抑制されていること。	予測結果と環境保全目標との対比において評価する。

猪名川上流広域ごみ処理施設建設事業環境影響評価実施計画書＜概要版＞ 平成 14 年 5 月

新旧対照表

ページ	旧	新
7	表 2-2-1 環境影響要因と環境要素の関連 環境要素(水生生物)の環境影響要因として「施設の稼働」を選定	環境要素(水生生物)の環境影響要因として「施設の稼働」を削除し、「土地利用の変化」を選定
	表 2-2-1 環境影響要因と環境要素の関連	環境要素として「地球温暖化」を追加し、環境影響要因を選定
8	表 3-1-1 現況調査、予測・評価を行う項目 環境要素(水生生物)の予測・評価項目として「施設の稼働」を選定	環境要素(水生生物)の予測・評価項目として「施設の稼働」を削除し、「土地利用の変化」を選定
	表 3-1-1 現況調査、予測・評価を行う項目	環境要素として「地球温暖化」を追加し、予測・評価項目を選定
9	表 3-2-1(1) 現況調査計画(案) 上層気象の現地調査の時期・頻度 「2 季各 7 日間」	「4 季各 7 日間」へ変更
	表 3-2-1(1) 現況調査計画(案) 大気質の現地調査項目 「ガス状水銀」	「水銀」へ変更
	表 3-2-1(1) 現況調査計画(案) 大気質の現地調査地点 「周辺地域 5 地点」	「周辺地域 6 地点」へ変更
	表 3-2-1(1) 現況調査計画(案) 出水時水質の現地調査項目	「流量」、「粒度組成、沈降試験」を追加
	表 3-2-1(1) 現況調査計画(案) 水質汚濁の項目	「地下水水質」としてダイオキシン類を追加
	表 3-2-1(1) 現況調査計画(案) 底質の現地調査項目	「pH、酸化還元電位、リソ酸性リソ、アンモニア性窒素、硝酸性窒素、亜硝酸性窒素」を追加
	表 3-2-1(1) 現況調査計画(案) 土壌汚染の現地調査地点 「周辺地域 5 地点」	「事業予定地 1 地点、周辺地域 6 地点」へ変更
	表 3-2-1(1) 現況調査計画(案) 騒音(道路交通騒音)の現地調査地点 「府道吉野下田尻線、県道野間出野一庫線、県道国崎野間口線の各 1 地点」	「県道野間出野一庫線、県道国崎野間口線の計 3 地点」へ変更
10	表 3-2-1(2) 現況調査計画(案) 水生生物の現地調査地点 「知明湖(田尻川)2 地点」	「知明湖(田尻川)等 3 地点」へ変更
	表 3-2-1(2) 現況調査計画(案)	現況調査項目の環境要素として「地球温暖化」を追加
11	図 3-2-1 現地調査地点位置図(案)	大気質調査 1 地点(一庫)を追加 土壌調査 2 地点(事業予定地、周辺)を追加 地下水調査地点 1 地点(国崎)を追加 道路交通騒音・振動 1 地点を移動
12	表 3-2-2(1) 予測計画(案) 大気汚染(供用時)の焼却施設の稼働に伴い発生する排出ガスの影響の予測方法 「大気拡散モデル(フルム・パフ式)による数値計算により……」	「大気拡散モデル(フルム・パフ式等)による数値計算により……」へ変更
13	表 3-2-2(2) 予測計画(案)	予測項目として「廃棄物運搬車両から発生する悪臭の影響」を追加
	表 3-2-2(2) 予測計画(案)	環境影響要因として「地球温暖化」を追加し、予測対象時期、予測項目等を記載
15	表 3-2-3(2) 評価計画(案)	評価項目として「廃棄物運搬車両から発生する悪臭の影響」を追加
	表 3-2-3(2) 評価計画(案)	環境影響要因として「地球温暖化」を追加し、環境保全目標、評価方法を記載